

延岡市学校教育研修所

I	研究主題と副題	1-3-1
II	主題設定の理由	1-3-1
III	研究目標	1-3-1
IV	研究仮説	1-3-1
V	研究組織	1-3-1
VI	研究内容	1-3-2
1	ワクワクする授業づくり	1-3-2
(1)	ねらいの教材レベルにおける具体化	1-3-2
(2)	指導方法の工夫	1-3-4
2	評価方法の模索	1-3-6
(1)	教師の道徳科の指導方法に対する評価	1-3-6
(2)	子どもの学習状況や道徳性に係る成長の様子への評価	1-3-7
3	ふるさと教材づくり	1-3-8
(1)	ワクワクする教材①	1-3-8
(2)	ワクワクする教材②	1-3-9
(3)	ワクワクする教材③	1-3-9
VII	成果と課題	1-3-10

〈引用・参考文献〉

〈研究同人〉

I 研究主題と副題

「子どもも教師もワクワクする 特別の教科 道徳」
～ ワクワクする授業づくり、評価方法の模索、ふるさとを題材にした教材づくりを通して ～

II 主題設定の理由

「道徳の時間」は、次期学習指導要領において、「特別の教科 道徳（以下、道徳科）」となる。この「特別の教科 道徳」は現行の「道徳の時間」の位置付けに代わるものとして新設される。ただし、総則第1（2）を見ると、「学校における道徳教育は、特別の教科である道徳（以下「道徳科」という。）を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであり、道徳科はもとより、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて、児童の発達段階を考慮して、適切な指導を行わなければならない。」と示されており、これまでの「道徳の時間」と大幅に趣旨や目的は変わらない。

しかしながら、中央教育審議会答申等で指摘されたようにこれまでの「道徳教育」や「道徳の時間」で十分でなかった点が、量的にも質的にも少なからずあったのも事実であり、教科化されるにあたり、学習指導過程や評価をどのように工夫改善し、実践していくのかなどが、多くの教師が直面する不安になると思われる。

本研究では、これらの不安を少しでも解消するためのヒントを突きつめていきたいと考える。そのためには、まず、「教師がおもしろいと感じる授業は、子どももきっとおもしろいと感じる」という信念の下、教師が楽しんで授業づくりを行うことが重要であると考え。そこで、本研究では「ワクワク」をキーワードに研究を進め、研究内容は「授業づくり」、「ふるさと教材づくり」の2点に焦点化した。（※評価については次年度以降の研究とし、本年度は評価方法の模索にとどめた）このような取組を行うことで、本市の「わかあゆ教育プラン」の実現が図られるとともに、本研究の研究内容が、本市の教職員にとって授業方法や評価の在り方についての一助になると考え、本主題を設定した。

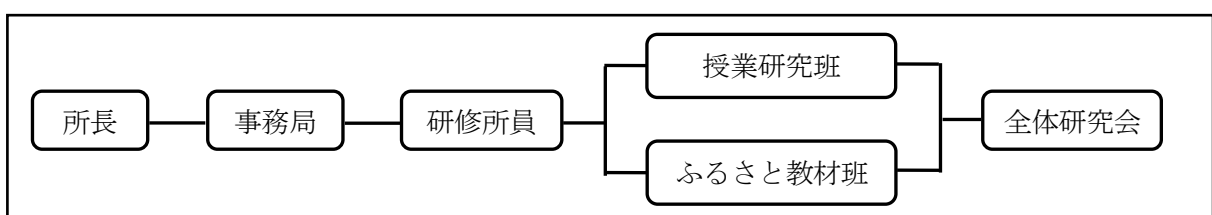
III 研究目標

道徳の教科化に向けて、次期学習指導要領に基づいた授業改善を行うことで、子どもも教師もワクワクする道徳科の授業の在り方を提案する。

IV 研究仮説

道徳の教科科に向けて、次期学習指導要領に基づいた授業改善を行えば、物事を多面的・多角的に考えさせ、自己（人間として）の生き方に対する考えを深める学習が展開でき、子どもも教師も次の時間が待ち遠しくなる道徳科の授業を実践することができるであろう。

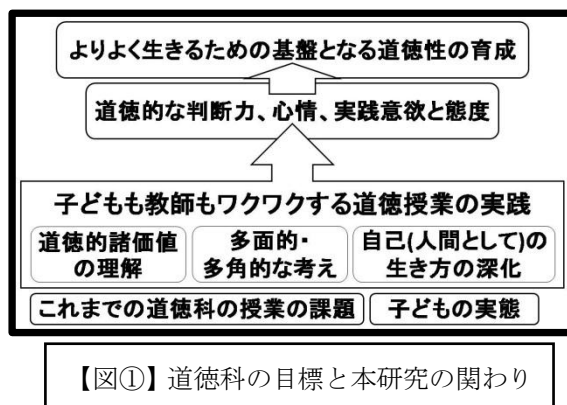
V 研究組織



VI 研究内容

これまでの「道徳の時間」における課題や子どもの実態から、道徳科の目標達成のためには、子どもはもちろん、指導者である教師もワクワクするような授業実践を行うことが必要であると考へた。【図①】

本研究では、延岡市内の抽出児童生徒796人、教師173人へのアンケート結果から、目指す道徳科の授業を以下のように定義した。



【図①】道徳科の目標と本研究の関わり

子どもにとってワクワクする道徳科の授業

- 友だちの意見によって、自分の考へが変わったり、広がったりする。
- 自分の意見をみんな（友だち、先生）に認めてもらえる。

教師にとってワクワクする道徳科の授業

- 子どもたちが互いの考へを認め合ったり、磨き合ったりする。
- 子どもたちが自分の思いや考へを本音で語り合っている。

本研究で目指す道徳科の授業を達成するためには、次期学習指導要領に基づいた授業改善が必要不可欠である。そのため、ワクワクする授業づくり、評価方法の模索、ふるさとを題材にした教材づくりの3つを柱として迫っていきたい。

1 ワクワクする授業づくり

これまでの授業実践から、「道徳の時間」における課題として以下のようなことが挙げられる。

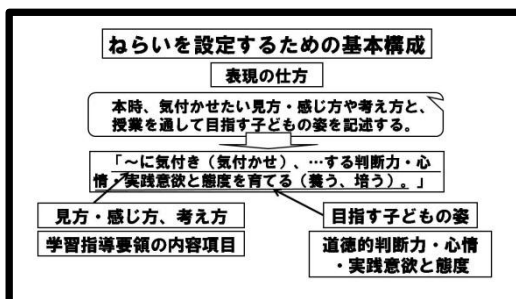
- ・ 発達段階や教材の特性を十分に考へせず、副読本に書かれているねらいを参考に、子どもに望ましいと思われる分かりきったことを言わせたり書かせたりする授業を展開してしまう。
- ・ 読み物資料において、登場人物の心情理解に終始した形式的な授業を展開してしまう。
- ・ 展開後段の自分に置き換える段階で「これまでの自分はどうか」「これからの自分はどうか」ばかりを尋ねる授業を展開してしまう。
- ・ 教師と一部の子どものやり取りに終始し、子ども同士が考へを交流したり、議論したりする場がない授業を展開してしまう。

そこで、この課題を解決し、目指す道徳科の授業を実践するために「ねらいの教材レベルにおける具体化」、「指導方法の工夫」に取り組んだ。

(1) ねらいの教材レベルにおける具体化

目指す道徳科の授業を実践するためには、ねらいをしっかりと設定する必要がある。そのため学習指導要領に示されている内容項目と道徳科の目標から、ねらいを明確にしなければならない。

【図②】ここでは、その基本構成を踏まえた上で、教材の特徴と子どもの実態を考へして、ねらいの教材レベルにおける具体化についての試みを紹介する。



【図②】ねらいの設定の基本構成

ア 小学校（第6学年）の例

「ロレンゾの友だち」（日本標準）のあらすじ 内容項目B-（10）友情、信頼
 アンドレ、サバイユ、ニコライの3人は、20年ぶりの再会を約束していた友だちのロレンゾが罪を犯し、警察に追われているかもしれないことを知る。ロレンゾに会った時、自分はどうのように行動すべきか、3人は悩む。

前述のねらいの焦点化の基本構成を踏まえ、事前研究会の中で、ねらいを「真の友情とは何かを考えさせ、人間関係を築いていく態度を養う」と設定した。しかし、これではあまりにも漠然としており、具体的に授業をイメージすることが難しかった。また、子どもがアンドレ、サバイユ、ニコライそれぞれの立場に立ち、議論を進める中で、教師が目指すゴールをどこに設定するのが曖昧で、授業がねらいとする価値から逸れることが危惧された。

そこで、ねらいを教材の特徴と子どもの実態を踏まえ、教材レベルで具体化することとした。以下が、実際の学習指導案に明記した本授業のねらいである。

主題名 本当の友情とは （教材名「ロレンゾの友だち」 出典：日本標準）

<p>○ 教材の特徴</p> <p>アンドレ、サバイユ、ニコライともにロレンゾの事は考えているが、ロレンゾの今後を考えたらニコライの考えが一番正しい。</p>	<p>○ 子どもの実態</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 間違った言動をする友達に注意することができない。 ・ グループ間で、互いの悪口を陰で言う。
---	--

○ 教材レベルで具体化したねらい

「誰の意見に賛成か」の議論を通して、本当にロレンゾのことを考えるということは、「その場しのぎではなく、ロレンゾの今後を真剣に考える」必要があることに気付かせ、互いに磨き合い、高め合うような人間関係を築いていく態度を養う。

イ 中学校（第2学年）の例

「二通の手紙」（文部科学省）のあらすじ 内容項目C-（10）遵法精神、公德心
 動物園の入園係をしている元さんは、入園終了時間後に、幼い姉弟を保護者同伴という園の規則を破って入園させる。しかし、姉弟はなかなか出口に現れず、職員で捜索する事態となる。後日、その母親から感謝の手紙が届くが、元さんはこの事件により懲戒処分を受ける。

主題名 きまりを守る （教材名「二通の手紙」 出典：文部科学省）

<p>○ 教材の特徴</p> <p>きまりを破って幼い姉弟を入園させ、本人達だけでなく母親も喜ばせたが、本来はきまりを守ることが正しい。</p>	<p>○ 子どもの実態</p> <p>行事が終わったことで気が緩み、時間を守れなかったり、廊下を走ったりときまりを守れないときがある。</p>
--	---

○ 教材レベルで具体化したねらい

「姉弟を入園させるか、させないか」の議論を通して、動物園のきまりは、客の安全や命を守るための「思いやりのあるきまり」であることに気付かせ、きまりを遵守し、義務を果たすことでよりよい社会をつくろうとする道徳的判断力を培う。

(2) 指導方法の工夫

先の項目で記述した「教材レベルで具体化したねらい」を基に、子どもも教師もワクワクする道徳科の授業を実践するためには、指導方法の工夫が必要と考える。ここでは、多様な指導方法の在り方や子どもの思いや考えを引き出す工夫を紹介する。

ア 多様な指導方法の在り方

『特別の教科 道徳』の指導方法・評価等について（報告）（H28年7月 道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議）に示された「道徳科における質の高い多様な指導方法について（イメージ）」を参考に、ねらいを達成するための効果的な指導方法を授業で検証した。検証授業では、【読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習】、【問題解決的な学習】、【道徳的行為に関する体験的な学習】の要素を組み合わせた指導を展開することで、ねらいに迫った。

検証授業 中学2年生「二通の手紙」より

<導入段階>



教材を読んで気になったことや納得がいけないことはないか。



元さんは、姉弟のことを考えて、入園させたのに懲戒処分はおかしいと思う。納得がいけない。

子どもの問題意識からねらいに沿ったテーマを設定した。【問題解決的な学習】

<展開①段階>



あなたが元さんなら入園させますか、させませんか。



私も元さんの立場だったら入園させる。だって、弟のために貯めた小遣いで来ているのに。

子どもにネームカードで自分の考えをはっきりさせた後で、「なぜ元さんは入れたのだろう。」「自分が元さんならどうするだろう。」等の発問により、元さんに自我関与させることで、元さんのやさしさと「きまりを守る」という道徳的価値を自分との関わりで考えさせた。【読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習】



やさしさを優先させるのか、きまりを優先させるのか互いの立場で役割演技をしてみよう。



役割演技を取り入れることで、多面的・多角的な視点から問題場面や取り得る行動について考えさせ、道徳的価値の意味や実現するために大切なことについて理解を深めさせた。【道徳的行為に関する体験的な学習】

イ 子どもの思いや考えを引き出す工夫

子どもが道徳的価値についての理解を基に、考え、議論することで、自らの価値観を認め合ったり、磨き合ったりするためには、言葉が重要な鍵となる。しかし、自分の思いや考えを言葉だけで伝えることは難しい。そこで、ネームカード、心情円盤等の道具や役割演技（役割交代を含む）、ペア・グループ活動等の学習活動を授業に意図的に取り入れ実践を行った。

<ネームカードや心情円盤の活用>

ワクワクする道徳科の授業の定義である価値観の認め合いや磨き合いを行うためには、子どもの思いや考えを可視化する必要があると考えた。自分が今どのような立場の思いや考えなのかを黒板に示すことで立場や考えをはっきりとさせたり、悩んでいる心の様子を友だちに伝えたりすることで、その後の意見の交流に繋がったりしていった。その際、以下の点に留意した。



- ・ 全体に考えを示す前に、ワークシートやノートを使って自分の考えをまとめる。
- ・ ネームカードを使用し、対立する考え（例：賛成か反対か）を取り上げる場合は、教材や子どもの実態を考慮し、最初から二極化させる（例：賛成か反対か）か、中間意見（例：賛成だが反対の気持ちもある）も取り上げるかを検討する。
- ・ 意見の交流を通して、ネームカードを貼る位置の変更も認める。その際、なぜ意見が変わったのか理由を取り上げることで、子どもの価値観を広げたり、深めたりする。
- ・ 対立する意見の一方が少数の場合は、意見の少ない方から取り上げたり、教師が少数側の立場に立ったりすることで、子どもの価値観を揺さぶる。
- ・ 同じ位置に貼っているネームカードや同じ割合の心情円盤でも、理由が違う場合には取り上げることで、子どもの価値観を揺さぶる材料とする。

<役割演技（役割交代を含む）やペア・グループ活動の活用>

教師と子どもとの問答や意見の発表だけでは、価値観の認め合いや磨き合いは難しい。また、発達段階によっては自分の思いや考えを本音で述べることに抵抗を感じる雰囲気も感じられる。そこで、ねらいを達成するために効果的だと思われる過程に役割演技やペア・グループでの活動を取り入れ、子どもの価値観の認め合いや磨き合いを図った。その際、以下の点に留意した。



- ・ 役割演技によって、子どもに気付かせたい価値や登場人物の心情を指導者が明確にしておき、そのために有効な場面設定をしっかりと検討する。
- ・ 役割演技は最低3回行うことを基本とし、役割演技に取り組んでいる代表者だけでなく、学級全体に反応を問うことで、その意図が全体に伝わるように配慮する。
- ・ 役割演技の内容が方法論に流れるなど、ねらいとする価値からそれてしまった場合には、教師が新たな方向性を示すなどコーディネーターの役割を果たす。
- ・ 役割演技後に、子どもの反応を見ながら、役割交代を取り入れることで、双方の価値観に気付いたり、認め合ったりすることができるようにする。
- ・ ペア・グループで活動させる際は、話し合う視点や役割演技させる視点を明確にする。

2 評価方法の模索

道徳科のスタートに際して、最も話題となっているのが評価に関することである。評価については、学習指導要領の総則にも、指導の評価と改善についての記述があるように、道徳科においても教師が自らの指導を振り返り、指導の改善に生かすとともに、児童の学習状況や道徳性に係る成長の様子などを積極的に捉えて評価し、日常指導や個別指導に生かしていく必要がある。

本研究を進めるにあたり実施した道徳に関するアンケート結果においても、多くの教員が評価に関して不安を感じている傾向が見られた。

そこで、この課題を解決し、目指す道徳科の授業に迫るため、次期学習指導要領や専門家会議『特別の教科 道徳』の指導方法・評価等について（報告）を参考に、「教師の道徳科の指導方法に対する評価」、「子どもの学習状況や道徳性に係る成長の様子への評価」に取り組んだ。

(1) 教師の道徳科の指導方法に対する評価

評価の目的の一つは、教師の指導方法の向上や道徳に関する指導計画の見直しを図るために行うものである。そのためには、道徳科の授業において、子どもに、①道徳的諸価値を理解させたか、②多面的・多角的に検討させたか、③自己（人間として）の生き方についての考えを深めさせたかを評価していく必要があると次期学習指導要領に明記されている。ここでは、子どもの感想に基づき、具体的に紹介する。

ア 子どもの授業中の記述による評価

今まできまりはそんなに重視するほど大切ではないと思っていたけど、守らない人が出てくることで周りの人が迷惑していることに気付いた。きまりを守ることは、自分たちのことに繋がることだと思った。きまりはやはり大切だと実感した。

（小6 C 規則の尊重の授業より）

本時のねらいである「きまりを守る」という価値の大切さに気付くことができているため、「①道徳的諸価値を理解させたか」の視点で達成できたと評価できる。

私は「入園させない」を選んだ。でも「入園させる」人の意見を聞くと、子どもたちがかわいそうだし、後悔したくないと言っていたので、私が元さんの立場で入園させなかったら、とても後悔すると思った。

（中2 C 遵法精神の授業より）

意見の交流や役割演技を通して、価値観が深まったり、広がったりしているため、「②多面的・多角的に検討させたか」の視点で達成できたと評価できる。

サバイユの考えに賛成だったが、みんなの意見を聞いているうちに、本当の友だちとしてロレンゾのことを考えるとニコライの考えが正しいと思うようになった。でも自分が同じ状況だったらサバイユのようにしてしまう。

（小6 B 友情、信頼の授業より）

本時の学習において意見の認め合いや磨き合いを通して、価値観の変容が見られ、その変容を自分のことに置き換えて考えることができているため、「③自己（人間として）の生き方についての考えを深めさせたか」の視点で達成できたと評価できる。

イ 子どもの授業後の感想による評価

目指す道徳科の授業構築のために、以下の視点で、毎時間子どもによる授業評価を行った。

①今日の学習は、ワクワクしたか？ ◎ ○ △

②今日の学習の前と後で、自分の考えが広がったり、深まったりしたか？ ◎ ○ △

この二つの設問に対し、3段階で自己評価をさせた。その結果を基に、教師自身が自分の授業を振り返り、子どもがワクワクする道徳科の授業の構築に努めていった。

(2) 子どもの学習状況や道徳性に係る成長の様子への評価

評価の目的のもう一つは、子どもの道徳的成長を願いつつ、子どもが自分の成長を振り返る契機とするために行うものである。そのため、他者との比較をするのではなく、これまでの自分と比べて、どれだけ成長したかを見取っていけばよいので個人内評価を行っていく必要がある。ここでは、ポートフォリオ評価について紹介する。

<ポートフォリオ評価>

ワークシートやノートに振り返りや感想等を記しておき、その成果をファイリングして評価の材料とし、フィードバックを行う評価。

番号	名前	規則の尊重 「おじさんのてがみ」 ＜最後の発問＞ ※これまでの自分を振り返ろう	親切、思いやり 「ぐみの木と小とり」 ＜最後の発問＞ ※「親切」ってどんなこと？	自然愛護 「ひみつの場所」 ＜最後の発問＞ ※生きものについてどう考える？	勇気 「水の公園」 ＜最後の発問＞ ※今日の学習を終えて
1	太郎	図書館でさわいだから、これからはさわがないように静かにすごす B	りずさんえらいな。わたしもりずさんみたいになりたいな A	大切にしたり、やさしく声をかけてあげたりしたい。毎日水やりをする B	よしくんもがんばったので、わたしも頑張つて注意したい B
2	二郎	電車でいっぱいの人に乗っているときは、静かにしないとけない C	人のやさしさが大切だと思った C	虫や動物は命があるから大切にしよう C	よしくんすごい。わたしだってできるから B
3	三郎	わたしは、以前バスでうるさかったから、バスに乗ったら心配です B	親切さを授業で教えてもらった。これから自分も親切にしていきたい B	ぼくは、つぎウーパールーパー係になるから〇〇君みたいにしたい B	よしくんは、年上にならまれたけど勇気を出してがんばったからすごいな A

子どもの学習後の感想をファイリングしておく。授業において子どもがねらいとする価値についてどのように理解したのか、どのように自分のこととして捉えたのかが把握できる。子どもの感想の分類は、「A→資料に関して記述、B→自分自身に関して記述、C→価値に関して記述」と設定した。先の項目で記述した「教師の道徳科の指導方法に対する評価」では、1時間の授業の中での子どもの感想を見取り評価の材料（表を縦に見る）としていたが、ここでは、長いスパンで子どもの道徳性に係る成長の様子を見取っていく（表を横に見る）必要がある。

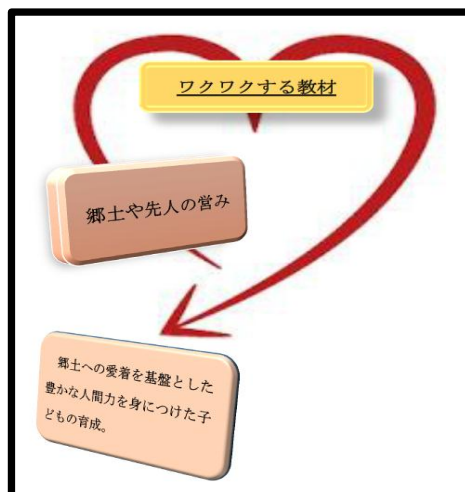
<評価の例>

- 「ぐみの木と小とり」を教材とした「親切、思いやり」の授業では、「『親切』ってどんなこと？」と本時の価値についての発問を行った。その中で二郎と花子は、しっかりとねらいとする価値に気付くことができた。
- 三郎はいつも学習の振り返りの際に、自分自身の行動を振り返り、これからの自分の生活をより良いものにしていこうとする意欲が見られる。また、「水の公園」を教材とした「勇気」の授業では、多くの子どもが自分自身について書いているのに対して、ねらいとする価値についてしっかりと気付くことができた。
- 花子はどのように発問しても、資料の感想から抜け出すことができないでいたが、「『親切』ってどんなこと？」と具体的に聞くことで、価値に気付くことができた。

3 ふるさと教材づくり

身近な自然や歴史、文化に親しむことは、自分が住む地域をよく知り、大切にしようとする心を育てることに繋がる。郷土や先人の営みを学ぶことは、ふるさとの自然や歴史、文化に対する理解を深め、それらを尊重し、さらに継承発展させようとする意欲や態度を養い、地域社会の形成者としての資質を養うとともに、将来への夢や目標をもって個性や創造性を発揮できる力を養う。

このような郷土への愛着を基盤とした豊かな人間力を身につけた子どもの育成を目的とし、子どもの心に響く地域教材を開発し、その活用に取り組む。



【図③】ふるさと教材づくりの基本構成

(1) ワクワクする教材①

題材	後藤勇吉の功績	教材名	夢は大空に
主題名	思いやりの心 周囲への感謝	内容項目	小学校高学年B— (7) 親切、思いやり・(8) 感謝 中学校B— (6) 思いやり、感謝
題材を選んだ理由			
<p>① 日本民間航空のパイオニアであり、延岡を代表する偉人であるため。</p> <p>② 目標達成に向かう努力の裏には家族や周囲のサポートが不可欠であることを気付かせ、それに感謝することができる心や態度を養う教材にしたかったため。</p> <p>③ 後藤勇吉顕彰会と連携した研究、教材作成をしたかったため。</p>			
ワクワクさせるための手法			
<p>身近に日本民間航空の礎を築いた人材がいるということを伝えたい。さらに単に思いやりの大切さに気付かせるだけでなく、根本において自分も他者も、共にかげがえのない存在であることをしっかり自覚できるようにし、思いやりと感謝の心と態度が育まれていくように工夫する必要がある。</p> <p>そこで指導にあたっては、役割演技等の手法を用いて、目標達成に向かい努力する勇吉とそれをサポートする母・チカやキクヨ夫人の姿に着目させ、思いやりと感謝の心に気付かせたい。そして展開の後半では自分の周囲で支え、サポートしてくれる存在に目を向けて感謝の手紙を書いたり、伝えたりすることで感謝する心や態度を養う機会となるようなワクワクする授業を展開していきたい。</p>			
指導のポイント			
<p>① 役割演技を用いて、自分の考えを発表させたり、他者の考えを理解させたりすることで多様な見方・考え方に気付かせる。</p> <p>② 授業の後半に自己を振りかえり、感謝すべき存在に手紙やメッセージを作成させることで、思いやりと感謝の心を態度にうつすことができるような心温まる教材にしたい。</p>			

(2) ワクワクする教材②

題材	伊形花笠踊り	教材名	伊形花笠踊り
主題名	郷土の伝統文化	内容項目	小学校高学年C-(17) 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度 中学校C-(16) 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度
<p>題材を選んだ理由</p> <p>① 延岡市の第1号無形文化財であり、また県の無形文化財の指定も受け、県内有数の文化財であるため。</p> <p>② ふるさとに残る祭りや行事などの伝統文化について考えるきっかけになると考えたため。</p> <p>③ 地域の伝統文化である伊形花笠踊りを受け継ぐ人が少なくなった現状を理解させるため。</p>			
<p>ワクワクさせるための手法</p> <p>地区に残る祭りや行事は身近なものであり、両親や祖父母も子どもの頃に経験しており、過去から脈々と受け継がれていることに気付かせ、郷土の伝統と文化を大切にすることを育みたい。また、担い手不足により存続が困難になっていることにも考えを広げていきたい。</p> <p>そこで指導にあたっては、役割演技等の手法を用いて、これからも伝統文化を守りたいと決意する主人公の気持ちに寄り添わせたい。その後、自分達の地区にも同じように伝統文化が残っていることに気付かせ、それらの歴史について考えていくことで、ワクワクする授業を展開していきたい。</p>			
<p>指導のポイント</p> <p>① 花笠踊りを続けよう決意する主人公の役になって役割演技をさせ、「練習大変だよ」「続けなくても良いんじゃないか」などと教師が声をかけることで、「続けていきたい」という子どもの声を引き出す。</p> <p>② 子どもたちは自分達の地区の祭りや行事について話したい事がたくさんあると思われる。子どもたちの話を共感的に聞きながら、郷土の伝統と文化を大切にすることを育む。</p>			

(3) ワクワクする教材③

題材	日吉小次郎と晩稲晩化	教材名	日吉小次郎
主題名	勇気ある決断	内容項目	小学校高学年A-(5) 希望と勇気、努力と強い意志 C-(17) 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度 中学校A-(4) 個性の伸長 C-(16) 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度
<p>題材を選んだ理由</p> <p>① 市民の知名度こそ低いですが、延岡の農業に偉大な功績を残した偉人であるため。</p> <p>② 他教科にて稲作に関する学習を行う際に、関連した指導を行うことができるため。</p>			
<p>ワクワクさせるための手法</p> <p>本教材の特徴として、葛藤教材であること、地域に密着した教材であること、歴史と現代の生活のつながりを実感させることができることなどが挙げられる。</p> <p>そこで指導にあたっては、葛藤教材となっていることを生かし、現状を打破したい主人公の考えと、苦しくてもリスクを避けたい村人達の考えが対立する場面を中心に引き上げ、立場や考え方の違う様々な意見に触れさせ、考えを認め合ったり、磨き合ったりさせる。また、早期水稲の栽培が盛んな宮崎県にありながら、延岡市では稲作が遅い時期に行われていることを紹介し、先人の知恵が現代へと受け継がれていることを感じ取らせる。これらの活動を通して、ワクワクする授業を展開していきたい。</p>			
<p>指導のポイント</p> <p>① ネームカードやワークシートを活用し、現状の打破をめざすのか、現状を維持してリスクを避けるのか、自分の立場を明確にした上で、その理由を明確にしていく。</p> <p>② 自分の立場を考え直す時間などを取り入れて、多様な意見に触れさせ、勇気についての考えを深化させる。</p> <p>③ 県南地区の稲作と比較しながら、延岡の稲作が現代でも遅く行われていることに気付かせる。</p>			

Ⅶ 成果と課題 ○成果 ●課題

授業研究班
<ul style="list-style-type: none"> ○ ねらいを教材レベルで具体化することを通して、授業イメージ、子どもの反応イメージを掴むことができ、ねらいとする価値に向けて学習指導過程がぶれない授業を展開することができるようになった。 ○ 多様な指導方法や子どもの思いを引き出す工夫をすることにより、子どもの価値観を広げたり、深めたりする授業が展開でき、子どもも教師もワクワクする道徳科の授業へ繋げることができた。 ○ 教師側、子ども側の両面から評価方法を模索することを通して、道徳科の評価についてのポイントを理解することができ、評価の在り方への見通しがもてた。 ● 本年度は葛藤教材を中心に研究授業を実践し、研究を深めていったが、感動教材を用いた授業におけるワクワクする授業づくりについても研究を深めていく必要がある。
ふるさと教材班
<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の素材を掘り起こすことを通して、研究員が延岡市の魅力を再確認することができた。 ○ 地域や専門家等の外部人材と連携を図ることができた。 ○ 興味のある題材を、授業で使用できる教材にするためのスキルを身に付けることができた。 ○ 他教科との関連を意図的に教材に組み込むことができた。 ○ 道徳科に向けた様々な情報やスキルを身に付けることができた。 ● ふるさと教材を使った授業の提案ができなかった。 ● 研究内容の発信ができていない。 ● 挿し絵の準備や、子どもに時代背景の理解をさせることが難しかった。
研究全体
<ul style="list-style-type: none"> ○ 異校種（小学校・中学校）の教員が、共同研究する機会は研究員にとって貴重な時間であり、経験であった。これまで、小・中学校での合同研究はどちらかといえば共通実践が中心であった。ねらいや目的を一つにすることの難しさがあった。いわゆる「発達段階」が壁となっていた。今回道徳の教科化に関する共同研究において、この点が克服されたことは今後の本研究会において大きな功績になると考える。

< 引用・参考文献 >

- ・小学校学習指導要領解説「特別の教科 道徳編」（文部科学省）
- ・中学校学習指導要領解説「特別の教科 道徳編」（文部科学省）
- ・「特別の教科 道徳」の指導方法・評価等について（報告）（文部科学省）
- ・道徳に係る教育課程の改善等について（答申）（中央教育審議会）
- ・新・道徳授業論（道徳教育・永田繁雄氏による連載）（明治図書）
- ・生誕 100 周年記念「空の先駆者 後藤勇吉」（後藤勇吉延岡顕彰会）
- ・生誕 110 周年記念「夢は大空に」（延岡市教育委員会）
- ・「延岡の先賢」
- ・伊形花笠踊り保存会提供資料

< 研究同人 >

延岡市学校教育研修所 所長：山口 昇 事務局長：花岡 道義 指導主事：永野 一美
 常任研究員 統括主任：佐保 博光（岡富中） 上野 哲矢（延岡小） 宇戸田 貢（恒富小）
 野邊 怜香（西小） 片桐 康裕（東海中） 坂東 里夏（南方小）
 山本 祐也（伊形小） 川畑 隆史（延岡中） 大田川 真志（南中）
 工藤 貴之（東海中）